

Hiib(ヒブ)ワクチンを知っていますか？



Hiibワクチンとは、インフルエンザ菌b型(インフルエンザウイルスとは別の細菌)による感染症を予防するためのワクチンです。多くの国(94カ国)で定期予防接種されているワクチンですが、これまで日本には導入されていませんでした。

Hiibは抵抗力の弱い乳児が感染すると細菌性髄膜炎や肺炎を引き起こします。特に細菌性髄膜炎では、り患児の3〜5%が死亡し、生存した場合も10〜20%に深刻な後遺症を残します。

さらに、早期診断が困難な事、治療薬が効かない耐性菌の出現もあり、以前から予防の重要性が叫ばれていました。Hiibワクチンの効果は非常に高く、定期接種化

した諸外国では、導入後、Hiib感染症のり患率が激減しています。世界保健機関(WHO)では、1998年にHiibワクチンを乳幼児への定期接種ワクチンに推奨し現在までに世界120カ国以上で導入されています。Hiib感染症は、可愛い子どもたちに襲いかかります。かかりやすいのは、生後3カ月から5歳になるまで、特に2歳未満のお子さんがもっとも多いと言われています。可愛い子どもたちを守る方法はHiibワクチンのみと考えても良いでしょう。そのワクチンが昨年12月から日本でもやっと接種できるようになりました。

しかし、残念な事に、定期接種化されず、全額自己負担で行う任意接種ワクチンの扱いです。この負担がワクチン普及の足かせになるのではと心配されていますが、怖い病気から可愛いお子さんを守るためにぜひ、早期に接種することを奨めます。定期接種化はまだ先になると思われます。それまで待っているうちにお子さんがHiibに感染しないとは言いい切れないのです。

可愛いお子さんを守るために皆さんでHiibの理解を深め、5歳未満のお子さんにはできる限り接種するように心がけましょう。

インフルエンザが流行しています

次のことに気をつけていますか？

- 十分な睡眠と栄養をとっていますか？
- 部屋が乾燥していませんか？
- 外出時にマスクをつけていますか？
- 外出後に手洗い、うがいをしていますか？

■問合せ 保健センター
☎ 72-5858